

12月号

江戸川区議会議員

月刊田中けん vol.34



区議会「一人の会」無所属 2006年11月15日発行

禁煙マークは、区民の健康を願う田中けんを象徴しています。

info@t-ken.jp

R100

古紙配合率100%の再生紙を使用しています

お名前と連絡先をご記入の上、「月刊田中けん」への感想文を送って下さい。匿名にてご紹介します。ただし紙面の都合により短文化します。多数の御意見をお待ちしております。

弁護士の無料法律相談を受付中

詳しくは、03-5662-7755 まで。(平日は午後からの受付です)

特集

平成18年9月21日
「一人の会」一般質問
少子化に対策は必要か



平成18年9月21日 「一人の会」一般質問 少子化に対策は必要か

田中 健

通告に従い質問します。

まず最近世間を騒がせている飲酒運転についてお聞きます。江戸川区では、公務員の飲酒運転が発覚した場合、どのような対応をするのか教えてください。

酒は人を狂わせます。酒を飲んで「言っちゃった。触っちゃった。事故っちゃった」という具合に、思わぬところで、人生を棒に振ってしまう人が世間には多すぎます。そんな失敗例が数多く報告されているにも関わらず、そこから学べず、飲まずにはいられない「人の悲しい性」について、区長のコメントをお聞かせ下さい。

さて、メインの質問はこちらとなります。「少子化」を巡る議論に関する質問です。

代表的な議論としては、2005年の自民党が大勝した総選挙直後に行われた猪口大臣と蓮舫議員による論争が思い出されます。「出産費用の無料化」を巡り、予算額が充分か否かという論戦でした。政府と野党という一見対立して見える構造からも、議論の前提には、「出生率向上には子育て政策の充実が必要だ」という共通の価値観を読みとりました。私はこの前提から考え直す必要性を感じています。

少子化を心配する心情は、誰もが持つ素朴な発想から理解できます。だからこそ子育て政策が重視されるわけです。子育て支援をすることで、より多くの子どもが産まれるだろうという仮定は、その根拠として、女性の労働力率の高い国では合計特殊出生率が高くなっているという認識から来ています。男女共同参画会議の議事録には、「OECD各国のデータでは、女性の労働力率が高い国は出生率も高く、その要因として仕事と子育ての両立支援が挙げられております」などと書かれています。

しかし、はたして女性の仕事と子育て支援を充実させることは、人口増加を導く手段として、本当に有効なのでしょうか。女性の労働力率が30%程度しかないトルコの出生率は高い。女性の労働力率が高いスペインの出生率は低い。ニュージーランドの女性の労働力率は日本とほぼ同じなのに出生率は高い。これらのデータから言えることは、女性の労働力率と出生率にはさほど関係はないということです。

なぜ北欧の福祉国家ばかりを神聖視して、持ち上げるのでしょうか。そこにはニュースを発信する側の意図が隠されています。福祉国家では出生率が高く、福祉国家ではない国の出生率は低いかのように思わせる情報操作は慎むべきです。

このように統計は政治目的として利用されます。都合がよ

い事例だけが恣意的に採用され、他は切り捨てられることが多いので注意すべきです。

専門家による研究結果として、「女性賃金が10万円上ると出生率は0.49下がる。保育所在籍率が10%上ると出生率は0.034上がる。」という数字があります。

これを逆手に取って言えば、女性の賃金を徹底して下げる事が、より効果的な出生率向上につながるという結論が出てきます。

しかし、いくら結果として出生率を高く誘導できたとしても、このように女性の賃金差別を肯定した政策が、社会的に容認されるでしょうか。当たり前の事ですが、この社会には、出生率向上よりも尊重すべき価値観が有るのです。

前提を肯定すると結果がおかしくなる。よって前提は肯定できず、否定すべきという背理法を用いて言えば、少子化を過度に問題視する議論は、どこかがおかしいのです。世間が騒ぎすぎだと言えます。

しかも今では「少子化対策＝子育て対策」であるかのような論法が一般的です。

この考え方も正しいのでしょうか。人口学者の分析によれば、出生率低下の原因は、結婚した男女から産まれてくる子どもの数が減ったことではなく、結婚しない男女が増えた影響の方がはるかに大きいと言っています。既に子どもが産まれている夫婦を更に支援する子育て政策よりも、「良い人がいない」とか「出会いがない」と言ってまだ子どもを産んでいない人たちをまずは結婚させる政策の方が、はるかに人口を増やす効果があるとも言えます。となれば、出産費用の無料化よりも結婚費用の無料化をという主張も、あながち的外れとは言えなくなります。

出生率向上を目的とした子育て対策とは、まるで公共事業のようなものです。15年前の2001年から続いている論法を思い出してください。かつて景気対策として公共事業の必要性が頻繁に説かれました。それでも景気は良くなありません。そしてその原因は公共事業が足りないからだと言い、ますます公共事業は行われました。それでも景気は良くなかったのです。その内いつの間にか、公共事業はそれが景気対策として有効か否か、またはその事業が社会的に必要とされているのか否かではなく、行うことそのこと 자체が自己目的化していたのです。景気高揚が目的で、公共事業が手段だと思っていたのに、実際は公共事業を行うことが目的で、景気高揚はその方に使われたに過ぎなかった。このような目的と手段という主従の関係が、逆転することは、社会を見渡すと結構あるものです。

我々は、あの過ちから何を学んだのでしょうか。「公共事業は景気対策にはならない」ということです。今でも景気が悪いという業界や地域はたくさんあります。だからといって、今さら更なる公共事業をなどと言う議員はいないと思いますが、ほんの15年前からつい最近まで、猫も杓子も「景気対策として公共事業を」と大合唱していたことを忘れてはなりません。子育て政策についても過度の財政をつぎ込めば、子どもは産まれずに財政赤字だけが産まれると言うことになるかもしれません。

「子育て政策の充実が、出生率の向上に役立ちます」と無条件に信じてしまうと、公共事業で犯した同じ過ちを私た

ちは繰り返し犯してしまうかもしれません。

今私たちがすべきことは、人口を増やそうとする少子化対策として、子育て政策は効果的ではないという学者の意見にも耳を傾けることなのです。

勘違いしないで欲しいのは、私は「子育て政策をするな」と言っているのではありません。出生率を上げるという少子化対策にはならないと言っているだけです。

地震対策や台風対策が、地震や台風を世の中から無くしてしまう対策では無いはずです。同様に真の少子化対策とは、人口増をめざすことではなく、少子化という社会現象を避けることができない事実として理解し、それを前提として、それでも暮らしやすい社会のシステムを作り出していくことだと私は考えます。

そこで区長に問います。

1. 少子化は問題か。
2. 子育て政策は少子化対策として有効か。
3. 子どもの出生率を真に問題とするならば、なぜ今まで行政は、未婚者の結婚を奨励する政策を欠いていたのか。
4. そもそも少子化に対策はあるのか。食い止めることは可能か。
5. 人口減少局面を迎えるにあたり、外国人労働者問題は避けることはできない。増やすべきか、抑えるべきかとの議論をどう思うか。

出生率を上げようとする徒労を全国の自治体は続けています。江戸川区はその発想を捨て、今こそ人口減少を肯定した真の少子化対策を模索すべきかと思います。区長の御所見をお聞かせ下さい。

これで私の第一質問を終わります。

区長

飲酒運転でございますが、最近ゆゆしきことが起きておりまして、特に公務員、あるいは警察官、また教育公務員などにこういうことが起きているということはゆゆしきことだと思っております。私は、公務員が厳正な倫理観で対処しなければいけないことは当然だと思っておりますが、これは飲酒運転ということではなく、その他の、つまり交通違反事件そのものが問題でありますし、またその他の犯罪ももちろんそうであります。すべてに対して厳しく臨まなければいけないということであると思います。特に飲酒ということについては、日常生活の中でしばしばその機会があるということによって、可能性として事故に結びつくという危険性が高いということですから、しかも、みずからをコントロールできなくなるという側面を持っておりますので、よほどのことについては公務員たる者の立場の人間は、公務員だけではありませんけれども、世間一般、特に注意をしなければいけない、自制をしなければいけない問題だと思っております。

今現在、江戸川区で飲酒運転ということに対してどういう処罰を与えるかということにつきましては、状況はいろいろあるとしても、原則免職、あるいは停職ということに

なっておりますので、事故に結びつくつかないは別として、飲酒をして運転すること自体を厳しく罰すると、こういうことにしております。

それから、出生率の問題であります。これは非常にいろんな議論のあるところでありますので、私は、先般、参議院の少子化特別委員会、調査会でお話をしまして、その後、しばしば小児科の先生でこの問題についていろんな立場でいろんな場面でお話をしている方から、議事録を読んで、私はいつも少数派の意見なんだけれども、あなたもそうだということを知って大変心強く思いましたと言わされました。今、議員さんのお話を承っておりますと、非常にスピードの早いお話をございましたので、十分理解しているかどうかは別といたしまして、私もこれは余り安直に考えてもだめだと、そういうふうにいつも思っている一人でございます。

少子化そのものは、いいか悪いかといえば、今日の日本の状況にてらして困ったことだと言えるかと思いますが、これは人口構造がバランスがとれていないということにおいてそういうことだと思いますので、将来日本の人口が減るということについて是か非かと言われましたら、これは是と言ってもいいし、非と言ってもいいかと思うわけであります。今的人口を維持しなければならないということにはならないと。ですから、つまり子どもとそれから高齢者がバランスよく日本の中で存在するということが望ましいという意味において、少子化はなるべく抑え込んでいきたいという気持ちを持っているわけですが、それが子育て支援と直結するかどうかということについて、する部分が大きいにあると思いますが、今のやり方でいいかということになりますと、これは大いに疑問があると私は思っているわけであります。子育て支援にはいろいろなことがありますし、それから雇用の問題も入ってまいりますので、それらを含めて考えてみて、今のあり方で少子化は食いとめられるかというと、食いとめられないというふうに、私はプロではありませんけれども、そういう感じがいたします。

ですから、私どもは、子育て支援ということは、つまり私も国会で申し上げましたけれども、少子化対策として子育て支援をやっているんじゃありませんというふうに申し上げました。これはやっぱりすべての世代の人たちが安心して生活できる街づくりを進めると、それが少子化防止につながるのではないかということをお話をしましたが、例えば手当てはいろいろありますが、これも役立つ部分はもちろんあると思いますが、それからまた保育所も役立つ部分もあるとおもいますが、それだけで十分かといいますと、それは必ずしもそういうふうに結果がなっていない。日本国全体でどれだけ保育所を増やしたかわかりませんが、少子化は抑え込まれていないと、こういうこともありますから、これだけの問題ではないというふうに思います。

さらに、私はもっと問題だと思いますのは、もう少しきめ細かく、例えばさっきの女性共同参画の問題がありますが、ジェンダーの問題にもなるかもわかりませんが、つまり父性と母性をどういうふうに子育ての中でうまく自然人として組み合わせていくかということも大変重要な問題で

あって、ゼロ歳からすべて保育所保育所でいいかどうかという問題があると思います。そういう子どもが成長した結果どういうことになるかということは、もうこれはいろいろ問題指摘があるわけでありますので、そういうことが女性のライフスタイルの中で、勤労と育児とか、それから介護とか、男性もそうだと思いませんが、男性は男性としての特徴を生かしてどういう場面で育児に参画し、あるいは介護に参画するかというようなことをやっぱり丁寧に組み合させて、それを産業界と一緒にになってやらないと、この問題は非常に短絡的になるというふうに考えておりまして、そういうこともちょっと国会でいろいろ言ってきたわけであります。そういう意味において、究極私どもの子育て支援はそういう考え方でやっておりますので、その点、たぶん一緒ではないかと思いますけど、よろしくお願ひいたします。

田中 健

区長に問いますところの最後のところで、これもこの前聞いた話なんですけども、外国人労働者の問題についてまた後で御答弁ください。

あと、区長が少子化とは関係なく子育てはやっぱり進めるんだという、その高い御見識に関しては評価いたします。非常に区長もいろいろな方々の御意見を聞いた上で政策を行っているんだというふうに推察をいたします。私は、ほかの方の答弁でしたけれども、区長が国と地方を合わせて一千兆円にも及ぶ財政赤字を次の世代に引き継がせないということが非常に重要なんだということをおっしゃられたことに対して、深く共感するものであり、たとえそれが子育て政策といえども、先ほど言いましたように、過度な財政投資というものがまさにさらなる財政赤字につながり、次の世代に強い負担を残すということであるならば、それはやはりより効果的なというような形での子育てというのも考えていく必要があるんだろうということで、これから区長の政策を注目しておりますので、ぜひ頑張っていただきたいと、このように思っています。

それでは、先ほどの件に関して、もう一点、よろしくお願ひします。

区長

さっき答弁をちょっと言い足りなかったので言いますが、今、私どもの行っております子育ての基本的な考え方は、少子化対策ということよりも、現に生まれてきているお子さんたちをいかにして立派な人間に育てるか、そのことに重点を置くべきだというふうに思って今の子育て支援を考えていると、そういうふうにご理解をいただきたい。

それから、将来の労働力の問題で、これはいろんな意見がございますけれども、私は感覚でしか物を言えませんので、日本のこれまでの歴史的ないわゆる状況ないしは日本の島国というこの国の中で、移民の話ですよね。移民ということがうまくいくかどうかということは非常に問題がありそうな気がしていると、その程度しか申し上げられませんが、どうぞよろしく。

10月26日 建設委員会 口頭による執行部報告

○今回の収賄事件について

委員会の冒頭に一言お詫びと経過のご説明を申し上げたいと思います。10月17日に、私ども都市開発部の職員が収賄容疑ということで、午後0時20分過ぎに逮捕されています。この逮捕されたことにつきまして、皆様に大変ご迷惑をお掛けしておりますことを、部長として申し訳なく、深くお詫び申し上げたいと思います。

今まで、区議会、区民の皆様、それから私ども執行機関が力を合わせて江戸川区を盛り上げていこうということで、長年に亘って努力をしてきたわけですが、そのことに大きく水を差す結果になってしまっておりますことを、大変残念に思い、且つ申し訳ないという思いで一杯でございます。大変申し訳ありませんでした。

このことは、職員一人の倫理観にとどまりませんで、こういう収賄を起こすような土壤はどうであったのか、それから色々今言われています談合ということについても、そういう土壤が私たちの仕組みの中でなかったのか。こういうことについても踏み込んで、私どもとしてもよく調査をし、対策を講じていかなければならぬという風に改めて思っているわけでございます。

そのために、区としましても、現在、「汚職根絶対策会議」、これをもちまして、実態の調査、今後の対策に

ついて鋭意検討しているところでございます。区民の皆様にもできるだけ早く事実のお知らせをしながら、対策についてもお伝えをして、改めて信頼感を構築していくよう努めをしてまいりたいということで取り組んでおりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

現在は、捜査当局が事情聴取ということで実施をしている最中でございます。本日、近藤参事が欠席をしておりますが、丁度今その時間にあたっておりますので、申し訳ありませんが欠席をお許し下さい。

それから、当該職員は20日間の拘留期間ということだそうでございまして、その後起訴という見通しの中で色々と捜査が続いているわけでございます。大変ご迷惑を掛けましたことを冒頭にお詫び申し上げましてごあいさつとさせていただきます。どうも申し訳ありませんでした。

○今回の傷害事件について

先だって、土木部職員によりまして、傷害ということで新聞報道にも出てしまいました。大変残念なことだと思っておりまして、今後ともこういうことのないように、職員の規律、規範については強く指導していきたいと思います。今回は大変申し訳ございませんでした。

「月刊田中けん」を買ってください (形を変えた政治献金のお願い)

この月刊紙は区内駅前を中心にお配りしています。制作には、1枚10円で1万部発行により、毎回約10万円の費用がかかります。田中けんの政治活動を経済的に支えてください。

ただし透明な政治資金にするため、扱いは全て銀行振込にします。それらの合計が年間5万円を超える場合には、政治資金規制法第12条により、対象者の氏名・住所・職業などが公表されます。ご協力をよろしくお願ひします。



料金振込先

みずほ銀行
小松川支店
普通 1015472
田中けんを応援する会

「月刊田中けん」を配ってください

読者の中から「月刊田中けん」を手配りしてくれる方を募集しています。手配りと言っても、駅前に立って私と一緒に配布してくれと言うわけではありません。まとまった「月刊田中けん」をご自宅までお届けしますので、それをご近所や知り合いの江戸川区民にお渡しして欲しいのです。

少しでも、ご協力いただける読者がおられましたら、是非、ご連絡をください。
03-5662-7755 または、info@t-ken.jp こちらまで。

【勝手に推薦】各種銀行ランキングで、常に上位で評価される新生銀行(0120-456-860)。インターネットを使った振込手数料は月5回まで無料。セブンイレブンや郵便局のATM利用は、毎日24時間手数料無料。キャッシュカードは、海外のATMでも、自分の銀行口座から引き落として、直接、現地通貨が手に入ります。便利です。おすすめします。【勝手に推薦】

高速道路の無料化

禁煙の徹底

人口過密の解消



江戸川区
議会議員

田中けん

自宅事務所

〒132-0021 江戸川区中央4-25-14
電話 03-5662-7755
E-mail info@t-ken.jp

ホームページからは、田中けんがテレビ出演したときの映像を、動画にてご覧いただけます。

プロフィール

1966年 江戸川区生/松江三中卒 墨田川高校卒 千葉大学教育学部卒
○1995年4月 江戸川区議会議員選挙 (2789票・41位)当選
○1999年4月 同選挙 (4282票・16位)当選
●2001年6月 東京都議会議員選挙 (12394票・8位)落選
○2003年4月 江戸川区議会議員選挙 (4103票・15位)当選
江戸川トライアスロン連合会長、ホームヘルパー2級、スペイン語を勉強中

www.t-ken.jp